

身近な文化財

第四話
古墳・塚

「遺跡」と聞くと、ハケを持ち、慎重に発掘調査をする様子を想像し、珍しい、遠い存在と感ずる方も多いかもしれません。市内には、現在確認されているだけで624遺跡があります。実は、皆さんが生活している周りにもたくさん遺跡がありますが、大半が地中に埋まっています。そのため、存在に気付かず生活していることが多いのです。

今回は、地上でも存在を確認できる古墳と塚を紹介いたします。地上に盛土などを行い、墳丘を持つお墓が「古墳」です。

柵形古墳群は、東栃本（A群）と東蕪内（B群）の2か所の丘陵にある古墳群です。

丘陵地の林の中に直径5〜10mほどの円墳が複数確認されており、前方後円墳と考えられる



▲柵形古墳群の位置



▲愛宕塚古墳



▲飯土用の一里塚

ものも確認されています。また、この周辺から土師器や玉類、直刀などが出土しています。

現在も墳丘が残る古墳は、下総塚古墳（舟田）、谷地久保古墳（本沼）、三年立古墳（本沼）、愛宕塚古墳（借宿）、鶴子谷古墳群（表郷堀之内）があります。

古墳以外にも、土を盛り上げた遺跡に「塚」があります。

大信飯土用には、白河と会津をつなぐ会津街道（白河街道）に設けられた一里塚があり、直径7m、高さ2mほどの円形の塚が1基存在しています。

一里塚は、江戸時代に主要な街道に、旅の目印として築かれたものです。

これらの遺跡は、その地域に生活した人々の存在や、多くの旅人が通過した街道の存在を教えてください、大切な文化財です。

☎文化財課 ☎2310

～自河の景観を守り・つくり・育てる～ 景観まちづくり通信 Vol.4

今月号は、景観の届出制度についてお知らせします。

☎本庁舎都市計画課 内2232

つぎの2つの街並みでは、どちらが落ち着いた印象を受けますか。



建物は街並みを構成する大きな要素です。建物の高さや形態、色彩など、周辺の景観との調和に配慮することで、街並みに連続性やまとまりが感じられるようになり、落ち着いた印象を与えます。

本市では、良好な街並みをつくるため、一定の規

おすすめ景観募集中！

日常生活で見つけた白河のおすすめ景観をインスタグラムで教えてください。
※詳しくは市ホームページへ



模を超える建物を建てる場合や工作物を設置する場合などには、事前に届出が必要となります。

また、届出の対象となる行為ごとに「景観形成基準」が定められており、適合が必要となります。

届出の対象規模に満たない場合でも、基準への適合に努め、そこに暮らす人々が心地よく感じられる街並みを皆さんでつくっていきましょう。

色彩

外壁・屋根などは、不快感を与えず、四季を通じて周辺の街並みや自然景観と調和する落ち着いた色彩を基調とする。

※届出や景観形成基準の詳細は市ホームページへ



例えば、こんな基準があるワン！

